

SEA TRIAL

# LITTLE MASSIVE

*PARKER 790 EXPLORER*

ポーランドには、オリジナルブランドで展開する歴史ある有名ビルダーは無いが、メジャービルダーの小型艇をOEM生産してきた歴史がある。大手ビルダーの監督、指導のもとで培った技術力が集積され、今日ではヨーロッパで最も多くのボートを建造する国となった。ポーランドビルダーの中でも、北欧を中心に急成長を続ける「PARKER Poland(パーカー・ポーランド)」。昨年日本に輸入されたばかりの最新モデル「PARKER 790 Explorer」の魅力に迫る。

text: Yoshinari Furuya photo: Makoto Yamada  
special thanks: OKAZAKI YACHTS <http://okazaki.yachts.co.jp>







## 北欧スタイルのデイボート、新設計のステップドハルが驚きの走りを叶える 英国PARKER RIBSの硬派な血統を受け継ぐ、“羊の皮を被った狼”「790 Explorer」

「PARKER (パーカー)」と検索すると、アメリカのボートビルダー PARKER Boat が上位に出てくる。今回紹介する PARKER は、この PARKER Boat と区別するために「PARKER Poland (パーカー・ポーランド)」として検索される PARKER だ。この「PARKER Poland」は、その名の通りポーランドで建造しているビルダー。新しいビルダーが次々と登場しているポーランドだが、PARKER Poland は経験値の浅い新興ビルダーとは異なる。PARKER の名称は、イギリスの PARKER RIBS の血統を受け継いだもの。沿岸警備やミリタリーをはじめ、厳しい条件下で使用されるプロフェッショナル用 RIB を建造する経験豊富な PARKER RIBS のグループ。そのプレジャーボート部門が PARKER Poland なのだ。

\*

昨年後半日本に輸入された「PARKER 790 Explorer」は、コンセプトが変わらない PARKER 800 Weekend を継承し、発展させたモデル。パウのステムは直立に近づきトレンドのデザインに、全長は短くなり 7.90m となった。また、「790 Explorer」は、800 Weekend と外観は似ているが、

全く違う新設計のハルを持つ。その違いは、ステップの有る無し。「790 Explorer」は、空気層を作ることで抵抗を減らし高速走行を可能にするステップボトム。レーシングボートやハイパフォーマンスのセンターコンソラーと同じデザインだ。効率よくスピードを出せることから小型ボートにも採用され始めたところ。ファミリークルーザーとしてはまだ少ないステップドハルの採用により、その走りは異次元レベルに進化している。



「PARKER 790 Explorer」のレイアウトやエクステリアは、北欧スタイルのデイボート。ヨーロッパのクルージングスタイルやフィッシングスタイルにも対応するコンパクトなハードトップのキャビンクルーザーだ。だが、全長に対してキャビンの大きいこのスタイルは、トップヘビーになりがち。波の中で止めた途端に大きくローリングするモデルもある。実は、乗船するまではネガティブな想像をし、あまり期待をしないで乗り込んだ。だが、その予想は、いい意味で裏切られることになる。

\*

船外機の左右に延びたスライミングステップから乗船する。その瞬間、想像を超える安定感。ローリングや傾きは小さく、低重心のスポーツボート



のように安定しているのだ。

トランサム中央、ハルと一体の強固なブラケットには、250馬力のアウトボードを搭載。その左右には、アウトボードの可動範囲ギリギリまで迫る広いトランサム。アウトボード艇ではあるが、後方からの乗り降りもしやすい。スターボード側のフロアハッチを開けると、スライミングラダーが折りたたまれ格納されている。斜めに延びるチークのラダーは、滑りにくく水中から上がりやすい。ポートサイドのフロアハッチの下にはアンカーを収納できるストア。北欧の係留スタイル、パウファーストの槍付けに必要なスタンアンカー用のアンカーローラーやアンカーチェーンのプロテクターが付けられるスロープが型取られている。また、アンカーロープを留めたい位置にクリートが備わる。日本の漁港にもそのまま対応できるだろう。そして、船外機前方のスペースを埋めるデッキが覆う。船外機をチルトアップする時には開閉し、メンテナンスもしやすい。

トランサムソファは背もたれを前に倒すことができる。アンカーリング時には、後方に向けてトランサムステップに足を伸ばし寛いだり、海水浴時に活躍するだろう。また、トローリング時には、プレイヤーと一体になれる人気のスタイル。あらかじめ、トローリング用のポールを取り付けられる配慮がしてあるところが PARKER 品質だ。

高めのブルワークに囲まれ、守られたアフタデッキ。トップにはハンドレールも備わり、スタンディングでのフィッシングも安全に行うことができる。トランサム背もたれを後方に倒せばストレートのベンチシート。背もたれごと開くベンチシートの座面。その下には、長尺物も、ビッグフィッシュも入れることができるストレージ。他にも、アフタデッキにはいくつかもの

ハッチが並び、無駄がない。しかも、強制循環イケスやフリーザーなどに変更することも可能だ。

\*

キャビンはポート側にオフセットされたアシンメトリー。パウデッキへの動線となるサイドデッキをスターボードだけと割り切ることで、ワイドなキャビンを実現した。

キャビンドアを開ける。3分割されたスライドドアは、クラス最大 900mm の開口部。サンルーフが大きく開き、開放的。ボリュームあるキャビンは、予想通り広い。幅 2,030mm、天井高 2,010mm、逆傾斜した北欧スタイルのフロントウィンドウにより、ゆとりの容積。センターピラーのないフロントウィンドウ、Bピラーのないサイドウィンドウはサイズ以上に明るく開放的なサロンスペースを生みだしている。

ポートサイド後方には、4名が着席できるダイネット。350mm フロアを高くし、視線を高くすることで、着座時の視界も良い。前方のベンチシートの背もたれを後方に倒せば、2人掛けのパッセンジャーシートに。スター







ボリュームあるキャビン。逆傾斜したセンターピラーのないフロントウィンドウ、Bピラーのないサイドウィンドウ、大きく開くサンルーフにより、非常に明るく開放的なサロンスペースを生まだしている。船体前方寄りのヘルムステーションは死角が少なく前方視界が広い。シンプルだがコンソールの高さも計算され、モニターの視認性も高く、スロットレバーやスイッチ類の位置もよく考えられている。

ボード側後方には、ミニギャレー。シンクとリフリジェレーターがコンパクトに収まる。コンロを搭載すれば、ステイも楽しくなるだろう。その前方には、PARKERのロゴが誇らしげなオリジナルのヘルムシート。バケットタイプはホールドもよく、フリップアップしスタンディングでも最適なポジション。そしてコンソールはシンプル。大型モニターの搭載も可能で視認性もよく考えられ使いやすい。

アコモデーションも充実。斜めに使う変則のダブルベッドは長い辺で2,200mmを確保している。その他に、ミジップに潜りこむように作られたシングルベッドもある。小さく見えるが2,130mmの長さがあり、長身の男性でも余裕。家族ならば、3人が宿泊できるキャビンとなる。また、サロンのテーブルを下せば、子供2人が寝るには十分なベッドに変形。デイクルーズだけでなく、大人2人+子供3人でキャンピングカー感覚のボートステイを楽しむことができる。



ヘルムシートに座り、スロットルを操作する。船体前方寄りのヘルムポジションに加え、センターピラーもないフラットな1枚ガラスのフロントウィンドシールドにより、死角が少なく前方視界が広い。シンプルなヘルムステーションであるが、コンソールの高さも計算され、視界を邪魔しない絶妙なポジション。モニターの視認性も高く、スロットレバーやスイッチ類の位置もよく考えられている。

デッドスローでヨットハーバーを出港。航路を出たところでスロットルを倒していく。1,000rpmで4ノット、2,000rpmで8ノット、3,000rpmで16ノット。船外機の瞬発力で、瞬時にプレーニング。3,500rpmで22ノット、4,000rpmで27ノット。30ノット前後のスピードが、まだ余裕を残したクルーズスピード。4,500rpmでは34ノット、5,000rpmでは39ノット。トップスピードは41ノットまで記録した。



高めのブルワークで守られたアフターデッキ。広いトランサムにより後方からの乗り降りもしやすい。トランサムのソファは背もたれを前に倒すことができ、座面の下は長尺物も入れることができるストレージとなる。ボードサイドのフロアハッチの下はアンカーを収納するストア。北欧の係留スタイル。バウファーストの備付けに必要な装備は、日本の漁港にもそのまま対応できるだろう。





この日の神戸は、風速8～10m/sで白波の立つ最悪のコンディション。湾内とはいえ、時には1mほどの三角波に当たるチョッピーな海面。その厳しいコンディションでの走りを試した瞬間から、ファミリーセダンだと決めつけていたことを反省する。このシーワージネスは只者ではない。パワフルに加速する力強い走り。ピッチングも皆無。姿勢をほとんど変えることもなくソフトに波を切り、高速で飛沫を後方に置き去りにする。白波が弾ける波の中、波の形や向きに関わらずステアリングを取られることもなく何事もなかったように走り抜ける。ダブルのステップドハルがスピードとソフトライドをかなえてくれたようだ。

遊びのない剛性感のあるステアリングホイールを握り、30ノット以上でスラロームに入る。切れ角とスピードに適した最善の角度にバンク。アンダーステアでもオーバーステアでもないニュートラルなハンドリング。投げ



飛ばされるような横Gで、ステアリングやシートにしがみつようなこともない。ドライバーを不安にさせることなく、左右に軽くステアリングを切るだけで、マニユーバを楽しむことができる。この走りは、ファミリークルーザーのレベルではない。高速スラロームにも正確なハンドリングができるスポーツボートの走り。「PARKER 790 Explorer」は、「羊の皮を被った狼」。ファミリークルーザーのデザインをしたスポーツボートであった。P.B.



バウキャビンには斜めに使う変則のダブルベッド。ミジップにはシングルベッドもある。さらにサロンのテーブルを下せば、子供2人が寝るのに十分なベッドに変形。大人2人+子供3人が楽しくボートステイすることができる。

#### PARKER 790 Explorer

全長 7.85 m  
 全幅 2.80 m  
 重量 2.10 ton  
 エンジン MERCURY Verado 250  
 最高出力 250 HP  
 燃料タンク 230 L  
 問い合わせ先 オカザキヨット  
 TEL: 西宮 0798-32-0202、横浜 045-770-0502  
<http://okazaki.yachts.co.jp>

